

平成21年度病害虫発生予報第2号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病(葉いもち) イネミズゾウムシ	並 並	並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>G.cingulata</i>) ハダニ類	やや少 並 並	やや少 並 並
アスパラガス	アザミウマ類	並	並
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 - 並 並 並	並 並 並 並 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	並 やや多 やや多	並 やや多 やや多
なし	黒星病 アブラムシ類	やや多 並	やや多 並
ぶどう	黒とう病 チャノキイロアザミウマ	やや少 並	やや少 並
果樹共通	カメムシ類	やや多	やや多
茶	炭疽病 カンザワハダニ クワシロカイガラムシ チャノココクモンハマキ チャノホソガ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ	並 並 並 やや少 並 やや多 やや多	並 並 並 やや少 並 やや多 やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、食害株率は9.6%(3.5%)、発生圃場率は33.3%(36.2%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は12.0%(36.3%)、1株当たり寄生成虫数は0頭(0.0頭)であった。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(32筆)の結果、発病株率は2.8%(4.2%)、発生圃場率は3.1%(23.7%)であった。

2. 炭疽病 (*G.cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(32筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

(3) 防除上注意する事項

ア 育苗床が多湿にならないように、連続した長時間のかん水はしない。密植を避け、排水対策を確実に行う。

イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(32筆)の結果、寄生株率は2.3%(2.2%)、発生圃場率は28.1%(14.1%)であった。

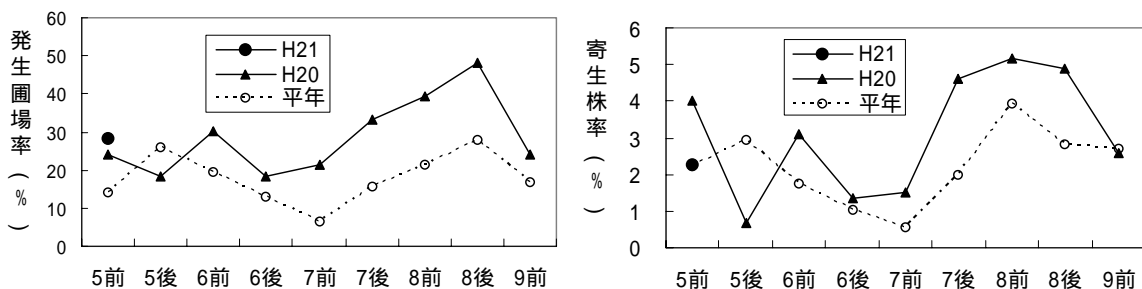


図 いちご育苗床 ハダニ類の発生推移(巡回調査)

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(9筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は7.7頭(前年5.4頭、前々年4.6頭)、発生圃場率は88.9%であった(前年77.8%、前々年77.8%)。

(3) 防除上注意すべき事項

5～6月はアザミウマ類が増加しやすい時期であるので、発生に注意し、早期防除に努める。

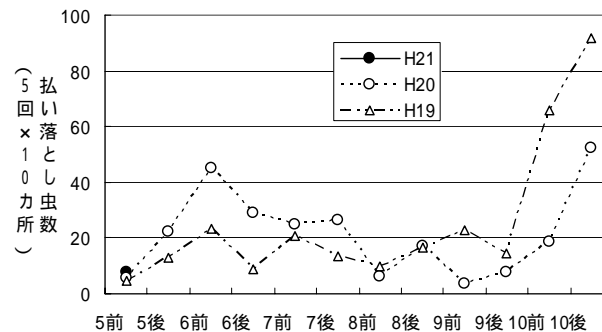


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率3.8%)。

2. かいよう病

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

3. 黒点病

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1ヶ月の降水量は平年並の見込みである。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容
発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は2.9%(2.3%)、発生圃場率は43.6%(24.8%)であった。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並に推移している(図)。なお、第2世代成虫の発生時期は下表のとおりと予測される。

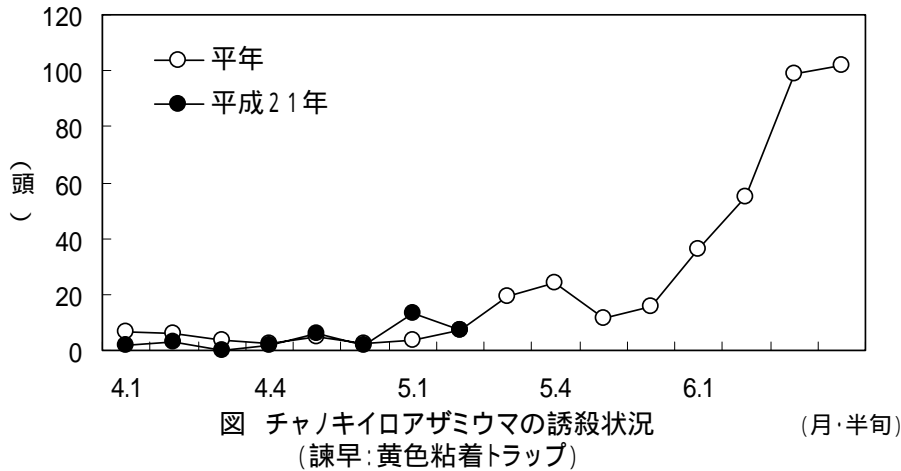


表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる第2世代成虫の予測発生ピーク日

地区名	長崎	野母崎	大瀬戸	口之津	佐世保	平戸
予測ピーク日	6 / 8	6 / 19	6 / 16	6 / 7	6 / 10	6 / 21
標高(m)	27	190	43	10	4	58

注1: 気温データは各地域のアメダスデータを使用した。

注2: 平成21年5月13日時点で予測し、5月14日以降のデータは平年値を使用した。

注3: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ なお、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 平成20年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査の結果、ヤノネカイガラムシの被害果率は0.3%(0.5%)であった。

イ 各地区における初発日と防除適期は、下表のとおり前年よりやや早いと予測される。

表 ヤノネカイガラムシの初発日と防除適期予測日

地区名	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸
初発日	5/4	5/6	5/4	5/3	5/5	5/5	5/9	5/10
(前年初発日)	5/7	5/10	5/8	5/7	5/9	5/8	5/13	5/6
防除適期 (IGR 剤)	5/29	5/31	5/29	5/28	5/30	5/30	6/3	5/31
防除適期 (有機リン剤)	6/13	6/15	6/13	6/12	6/14	6/14	6/18	6/15
標高 (m)	27	3	9	10	43	4	5	58

注1：方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を利用した。

注2：初発日は気象庁アメダスの気温データを用いて算出し、防除適期は IGR 剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。

注3：同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率0.5%(0.8%)、発生圃場率は30.0%(33.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

収穫終了後、夏葉伸長期に防除する。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率8.8%(0.7%)、発生圃場率は80.0%(28.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

収穫終了後、夏葉伸長期に防除する。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率0.3%(0.0%)、発生圃場率は20.0%(0.0%)であった。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年並で推移している(図)。

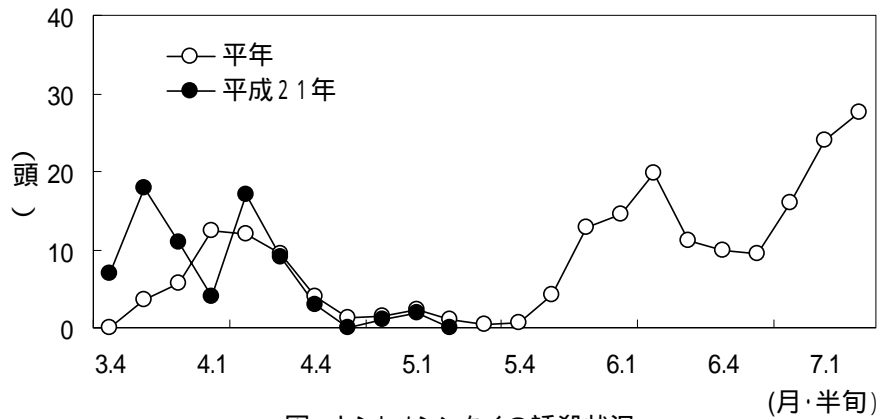


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況
(諫早:フェロモントラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率2.8%(0.3%)、発生圃場率50.0%(23.5%)、発病果率0.6%(0.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤耐性菌発達防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は1.0%(1.5%)、発生圃場率は33.3%(21.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.1%、発生圃場率8.3%)。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並に推移している。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 1～2月に実施した越冬量調査の結果、越冬量は平年よりやや多かった。
- イ 各地区のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している。
- ウ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

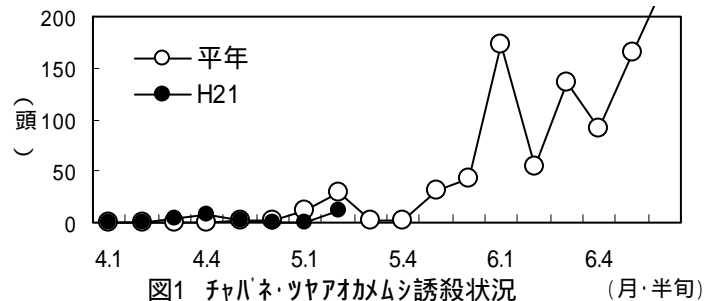


図1 チャハネ・ツヤアオカメムシ誘殺状況 (多良見:黄色コガネコル)
平年は平成17～20年の平均

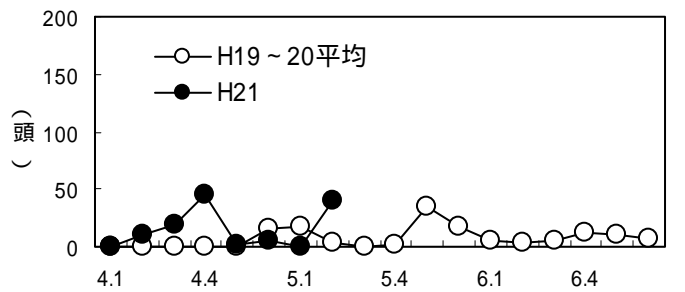


図2 チャハネ・ツヤアオカメムシの誘殺状況 (月・半旬)
(西彼:黄色コガネコル)

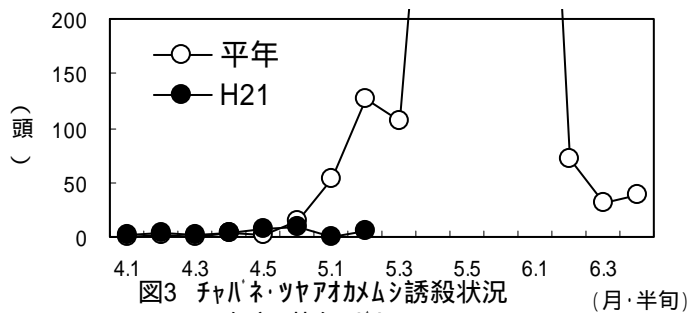


図3 チャハネ・ツヤアオカメムシ誘殺状況 (有家:黄色コガネコル)
平年は平成17～20年の平均

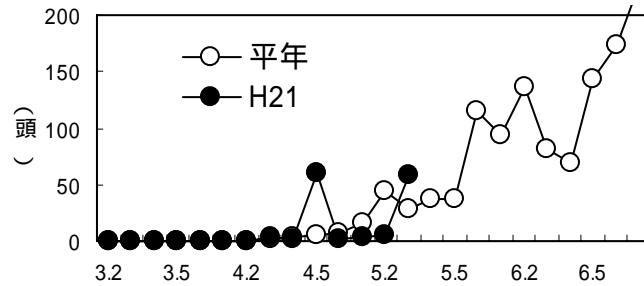


図4 茶ハネツヤアカメムシの誘殺状況 (月・半月)
(諫早:黄色カネコール)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스みかん、びわ、なし等では、今後果樹園への飛来が予想されるので、早期発見に努める。
- イ ハウスの開口部は防虫網(4mm目以下)を設置し、ハウス内への侵入を防ぐ。
- ウ 防除薬剤の使用に当たっては、農薬使用基準に留意する。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

2. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.6%(0.6%)、発生圃場率は20.0%(18.3%)であった。

3. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は4.4%(6.9%)、発生圃場率は40.0%(34.7%)であった。

イ 本虫第1世代のふ化盛期予測日は、下表のとおり過去3か年よりやや早いと予測される。

表 第1世代のふ化盛期予測日

地区名	標高	平成21年	平成20年	平成19年	平成18年
東彼杵町 太の原	360m	5/20	5/22	5/26	5/28

注1: 算出方法は「有効積算温度則による防除適期予測法(農林技術開発センター茶業研究室)」により、平成21年5月13日時点で算出した。

注2: 気温データは、農林技術開発センター茶業研究室による測定値を使用した。

注3: 同一地区内でも標高や土地条件によりふ化盛期日が前後する場合がありますので注意する。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、表のふ化盛期予測日を中心に防除する。なお、独自にふ化盛期日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

4. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり巻葉数は0.0枚(0.0枚)、発生圃場率は15.0%(1.3%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、平年よりやや少ない(図)。

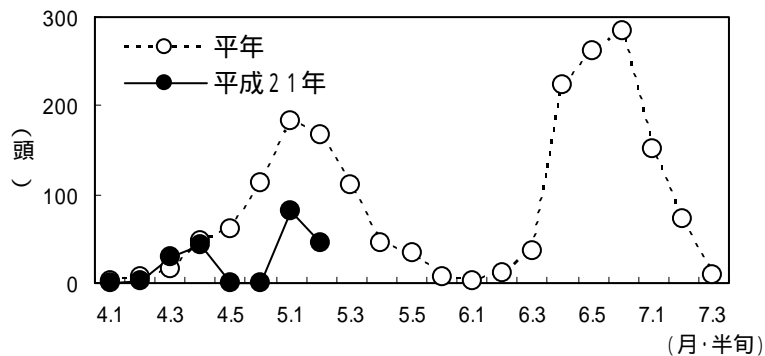


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

5. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡当たり巻葉数0.1枚、発生圃場率11.0%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は4月にやや多かった(図)。

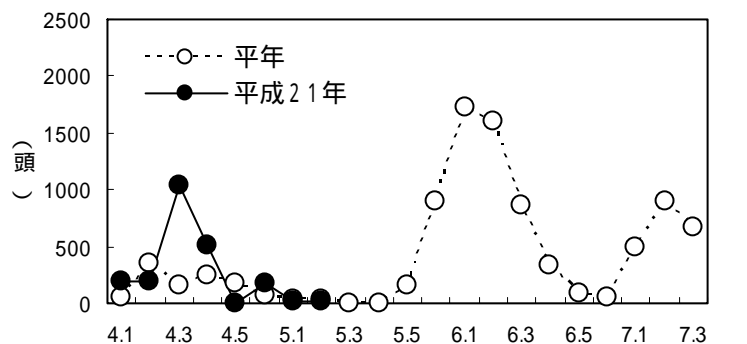


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ) (月・半月)

6. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は18.8頭(7.7頭)、発生圃場率は60.0%(52.7%)であった。
- イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

7. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は3.4頭(0.5頭)、発生圃場率は70.0%(20.3%)であった。
- イ 向こう1ヶ月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
幼虫は葉裏にいることが多いので、葉裏にも十分薬剤がかかるよう散布する。

【参考】
気象

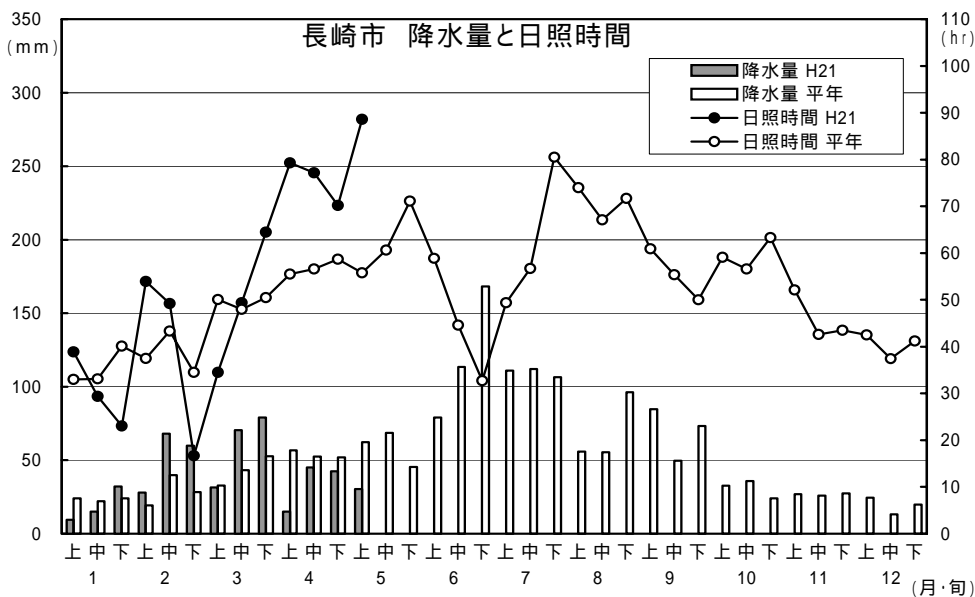
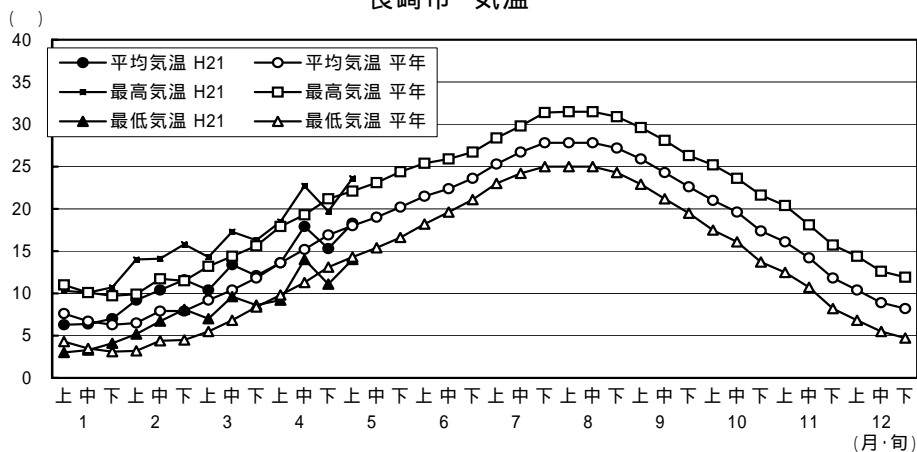
(平成21年5月15日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

予報対象地域：九州北部地域

平成21年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027